

『主体的に学び、確かな学力を身に付ける環境づくり』

～学力向上につながる ICT の効果的な活用を通して～

宮崎県都城市立梅北小学校 川野 泰寛

1 主題設定の理由

中央教育審議会答申（令和3年1月）では、これから実現すべき学びのあり方として「個別最適な学び」があげられた。「個別最適な学び」は、指導方法・教材や学習時間などの柔軟な提供、自らの学習を把握し、調整しながら粘り強く取り組むこと等が提起されている。また、ICTを活用し、より主体的に学習することも現在求められている。

本校児童は、基礎的・基本的な技能の習得に個人差が大きい。特に算数科の学習では、学力に二極化が見られ、自分の考えを表現することに難しさを感じている児童も多い。CRTの学習意欲に関するアンケートの、「一度やりかけたことは、至少くくらいづらくても、やりとげるようにしている」や「自分から手をあげたり発表したりするなど、授業に積極的に取り組んでいる。」の項目で、3～4割の児童が否定的な回答をしている。

そこで、習熟の時間の確保やICT活用のスキルの向上を図るための環境を整えれば、確かな学力を身に付けさせ、主体的に学ぼうとする児童を育成することができるのではないかと考え、本主題を設定した。

2 研究の仮説

児童のICTの活用スキルを向上させ、積極的に表現したいと思える環境づくりを行えば、確かな学力を身に付け、主体的に学ぼうとする児童を育成することができるであろう。

3 研究の内容

- (1) 児童と教師がICTを活用できる“chrome book time (CBT)”
- (2) 教師の授業力向上に向けた手立て
- (3) 習熟の時間の確保

4 研究の実際

- (1) 児童と教師がICTを活用できる“chrome book time (CBT)”

予備時数を活用し、月に2回、全学年で“chrome book time (CBT)”の時間の設定を行った。都城市は、1人1台端末にchrome bookが採用され、G Suite for Educationを活用して、多様な授業を展

開することができるようになった。そこで、児童のICTの活用スキルや、職員のICTの活用スキルを高めるために、情報教育担当が各学級に入り指導を行った。

(2) 教師の授業力向上に向けた手立て

ICTの活用を含めた授業力の向上を行うため、「授業づくりシート」を活用し、授業の工夫改善ができるようにした。宮崎県の4+4のチェックポイントをもとに、本校ならではの具体的な手立てを示し、より児童が考えることを大切にしたい授業作りを意識できるようにした。

さらに、ICT活用事例集を作成し、算数科のどのタイミングでどのような活用ができるかを職員で持ち寄ることで、chrome bookの活用方法について理解を深めた。

(3) 習熟の時間の確保

全学年年間6時間の算数科の標準時数を増やすことや、月に一度のチャレンジタイムの時間を設定することで、習熟の時間を確保できるようにした。

その時間を学びの確認の時間として当て、個別にも基礎的・基本的な能力の習熟ができるような環境を整えてきた。また、web上で復習できるサイトを活用する等、個別最適な学びを提供できるようにした。

5 成果と課題

- Chromebookを活用し、様々なアプリを活用できる状況を整えたことで、児童が、自分から問題に取り組もうとする姿勢が見られるようになった。
- 図形の描写など、自力で描くことが難しい内容についても、ICTを活用することで、進んで取り組む姿が見られた。ペアの相手にも自分の考えを図や絵で示す習慣が身に付いてきた。
- 授業づくりシートを活用することで、ICTを活用した授業の流れがつかみやすくなった。
- 主体的に取り組めるような教材を作成するためには、準備に大変さがあり、教材作成の時間の確保が必要である。
- 習熟の時間で、個別最適な学習ができるAIドリルやwebドリル等の効果的な活用について、さらに研究していく必要がある。